第３回

丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会

日　時：令和５年８月３１日（木）
　　１４：３０～
場　所：丸森町役場　３０２会議室

次　　第

１　開　　会

２　委員紹介

３　あいさつ

４　議事

（１）これまでの検討経過
（２）今後のスケジュール
（３）第６回検討部会の意見と対応
（４）第３回検討委員会説明資料
（５）その他

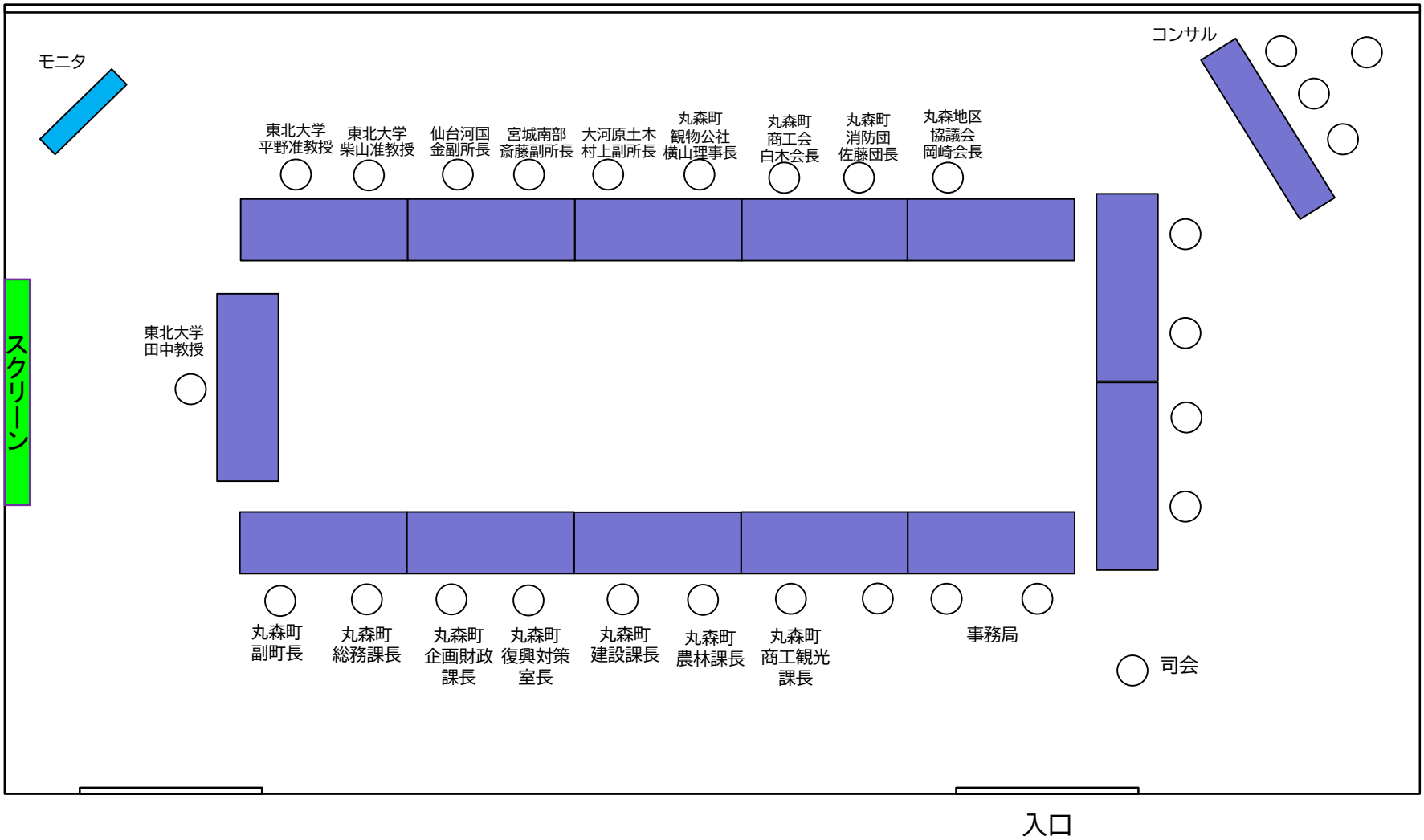
６　閉　　会

資料―１　配席図
資料―２　委員名簿
資料―３　これまでの検討経過
資料―４　今後のスケジュール
資料―５　第６回検討部会の意見と対応
資料―６　第３回検討委員会説明資料

資料―1

丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会　配席図

会場:丸森町役場　3階　302会議室



丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会（Ｒ５）

資料―2

団体名	所属等	氏名	備考
東北大学	教養教育院　総長特命教授	田中　仁	
東北大学	災害科学国際研究所　准教授	平野　勝也	
東北大学	災害科学国際研究所　准教授	柴山　明寛	
国土交通省東北地方整備局	仙台河川国道事務所副所長	金　真一郎	
国土交通省東北地方整備局	宮城南部復興事務所副所長	斎藤　巧	
宮城県	大河原土木事務所副所長	村上　好伸	
丸森町観光物産振興公社	理事長	横山　博昭	
丸森町商工会	会長	白木　寛一	
丸森町消防団	団長	佐藤　隆	
丸森地区協議会	会長	岡崎　俊範	
丸森町役場	副町長	佐々木　秀之	
〃	総務課長	大内　一郎	
〃	企画財政課長	長門　修	
〃	復興対策室長	佐藤　徳和	
〃	建設課長	八巻　一浩	
〃	農林課長	引地　誠	
〃	商工観光課長	大内　重幸	

資料―３

（２）これまでの検討経過

➢ 令和２年度

①令和元年東日本台風災害からの復旧・復興を目指し、新たな防災拠点整備を要望
②仙台河川国道事務所の助言を受け、河川防災ステーション整備検討を開始
③河川防災ステーション整備計画の登録（水管理・国土保全局長）　令和３年３月 18 日

➢ 令和３年度、４年度

年度	令和３年度	令和４年度
回数	丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会　３回 〃　に関する説明会　１回	丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会　２回 〃　検討部会　５回 視察研修　１回
目的	河川防災ステーションの基盤整備内容の確定 平常時利用構想の絞り込み （整備メニューの確定）、課題整理	主に平常時の利活用に関して ・水防センターの機能、施設の運営方法など、意見交換 ・周辺を含めた利活用に関する意見交換
主な内容	①河川防災 ST　整備内容についての意見収集、修正内容説明 上面配置、平常時利活用にむけた課題を説明 ②平常時利活用の実現可能な構想案の位置・整備内容（案） 実現可能な構想案のメリット・ディメリットや課題を説明	主に意見交換にて議事を進行。部会員による議論の熟成が大きな成果。 ・丸森の中心街の観光戦略、（仮）川の駅（観光交流センター・水防センター）の役割およびフットパス（川風トレイル）について ・水防センターの整備や運営体制、および費用について ・水防センターのブロックプランについて ・対岸の高水敷を含めた新たな展開について
大まかな アウトプット	①河川防災 ST　上面レイアウトを修正（左折レーン、ボックス閉塞、資材配置変更等）。 ②平常時利活用構想案の意見収集、構想案のとりまとめ。 ⇒整備メニューを確定し、R4 年度に具体の利活用検討ができるよう課題を整理。	・河川防災ステーションは、「町のゲートウェイ」として、「健康とアウトドア」をキーワードに展開する。 ・利活用の具体案：フットパス・トレイル、阿武隈ライン舟下り、健康とアウトドア（サウナ）、丸森ならではの食、サイクリング、アウトドアメーカーとの連携等。 ・レイアウトについて、以下２点は事務局の宿題となった。①備蓄資材置き場を目立たなくする段差の工夫。②土砂置き場の緩やかな起伏配置の工夫。 ・視察先（石巻かわまちオープンパーク、いしのまき元気、かわまちテラス閖上）の運営体制や状況を参考に、「まちづくり会社」を軸とした体制・事業スキームについて事務局より情報提供。 ・水防センターの運営方法について意見交換（公設民営、民設民営、収益、経営者について等々）。運営体制、水防センターの商用機能については引き続き検討する。 ・高水敷伐採について、国土交通省より情報提供。引き続き利活用案を検討するとともに、残す樹木について現地立会を予定する。

資料-4

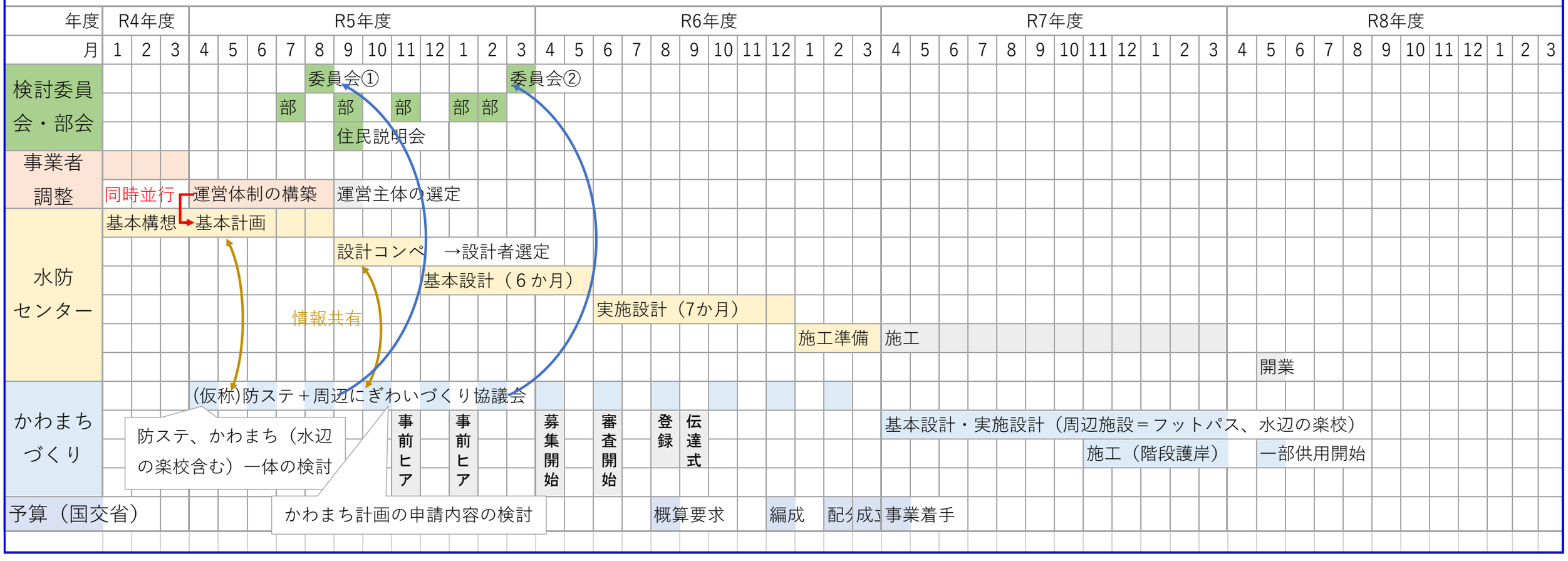
（２）今後のスケジュール

①　整備スケジュール

事業 ＼ 年度			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
防災拠点の整備									
設計	防災拠点（造成、資材）	国	予備設計	詳細設計					
設計	水防センター	町		基本構想・計画	基本設計・実施設計				
工事	防災拠点（造成、資材）	国		用地確保	盛土工	舗装・排水工 資材配置	河川防災ステーション　利用開始		
工事	水防センター	町					水防センター建設	水防センター　利用開始	

※　国　：　国土交通省　東北地方整備局　仙台河川国道事務所
※　町　：　宮城県丸森町

②　検討部会及びかわまちづくりスケジュール



資料―５

（３）第６回丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会の意見と対応

大項目	小項目	意　見	対　応
１．河川防災ステーションの利活用方針	(1)川の駅のキャッチコピーを考える	○みんなで詰めてきた「健康アンドアウトドア」を一言で言う格好いいキャッチコピーを皆さん考えてください。それが施設名に入るべきだと思う。名前聞いたら、あそこへ行ったら健康になれそうとか、アウトドア楽しめそう、と思える名前。一言で表現する。	○第７回の部会で委員からの提案を求める。 ○決定案をコピーライターに依頼する。(たとえば、今回、紹介されたデザイナーの太田さんに相談して)
２．（仮称）川の駅整備方針	(1)建築計画案	【官民によるデザイン調整が大切】 ○民間事業者による事業展開エリアと公で建てる水防センターの建物（観光交流センターも込み）のデザイン調整は、すごく重要になってきます。設計検討体制、調整体制の確立をお願いします。	○「(仮称）施設整備・運営体制班」で、民間事業者の事業展開について議論する。 ○設計コンペの検討内容に盛り込む。
		【水防機能について】 ○２階の一番左上、水防団の待機室、ここはテーブルとか椅子を置いて指揮所的利用できれば良いと思います。 ○今後水防団の施設として、水防団との議論もすごく大事になってくると思うので、よろしくお願いします。	○「(仮称）防災・周遊検討班」で、水防団の方に諸室の機能を調整する。
		【防災教育】 ○丸森町、もしくは教育委員会、誰が所掌して責任持ってこの展示を決めていくのかという体制づくりからお考えいただくことをお願いしました。柴山先生が詳しいのでご相談いただくといいと思います。 ○丸森の山と川と分かるようにして、災害実態が分かるようなインパクトのある展示、それが防災教育にとっていいと思います。１階にポンプ車やボートがありますね。外から子供たちが見られるようなことも配慮してほしい。	○「(仮称）防災・周遊検討班」に柴山先生に入っていただき、これから詰めていく。(調整済み)
	(2)トイレトレーラーの整備	○トイレトレーラーが町に１つあるといい。災害のときボランティアの人も使える。日常で使えばこういうのがあるというのが広報できる。近隣で被災したところにトイレトレーラーを貸すこともできる。 ○下水道に接続できるトレーラーを造ってもらえばいい。ふだんは接続して使う。タンクも持っておいて、いざとなって別のところに派遣するときはタンクに入れる。やれそうな気がする。前向きに考えてみよう。	○町で導入する手法を検討（財源等)。 ○トイレトレーラーの規模と台数、導入費を検討。 参考：４人用（約 2,000 万円）×２台（最低） ○災害派遣時は、本施設で利用できない。 ○以上のことから、本施設への導入は見送る。
	(3)防災井戸の整備	○国交省にお聞きします。「防災井戸」があると大変いいと思います。技術的に問題ないのだけれども、国交省が防災ステーションを整備するために河川区域に編入するので、制度上の問題がでてくる。そこは、ぜひ内部でよく議論いただいて、実現できるようよろしくお願いします。	○河川区域内であり、水利権の問題も関係することから、所内で検討させてほしい。(国交省)
３．河川防災ステーションの施設レイアウト	(1)資材置き場の目隠し植栽	○（例えばこの丘を造っているところに行く）と、土塁が「見切れ」になって、資材は見えない。普通の 1.5mの目線高で近づいていくと、当然土塁１ｍしかなければどんどん見えてきますよね。どのぐらいまで近づくと見えるみたいな断面図シミュレーションをやって下さい。	○了解しました。(コンサルタント)
		○備蓄資材置き場の建設機械活動スペースの北側に、ある程度高木とかを並べると、これぐらいの土塁でも、アイストップになるはずです。そうすると、意識があまり行かなくなる。完全に隠さなくてもこの辺に植栽を加えるだけである程度効果的になるかなと思います。	○高木植栽が可能な範囲は、ヘリポートの高さ制限を考慮しつつ検討します。(コンサルタント)
		○これぐらいのスペースあると、水が取れるところがないと管理上はきついだろうと思う。その辺はセットで進めないと難しい。管理用の散水栓のための水道管を忘れないでね。	○高木植栽を行う場合は、管理用の散水栓を設ける。
	(2)薪棚による目隠し、そして薪を利用する	○薪置場、絶対いいです。放射線量を測定して大丈夫だと分かれば、丸森の薪は大丈夫なのだという宣伝にもなる。ぜひ目隠しフェンス代わりに薪置場を検討してもらいたい。薪割体験をやっても面白そう。 ○絶対いいよね。オーケーです。薪がばっと並んでいると「健康アンドアウトドア」のイメージにもぴったりだ。	○薪棚の設置や薪の利用方法を検討する。
	(3)まとめ	○樹種も含めて検討して下さい。土塁や植栽による自然な目隠しを考えつつ、薪置場なんかもセットにしながら、上手にこの健康とアウトドアの丸森なイメージを強調する形、合わせ技でやっていく方向でいきましょう。	○土塁、植栽、薪棚を組み合わせて総合的な修景方法を検討する。

大項目	小項目	意　見	対　応
４．かわまちづくり計画の検討	(1)川風トレイルの検討	【川風トレイル】 ○川風トレイルで紹介する場所（資源）についてまとめました。まとめて「川風トレイル」を紹介するものがあれば、魅力の発信につながるかと思って作成しました。参考として別紙図面もつくってもらいました。	○本図面を基に、川風トレイルのルートを計画する。
		【川風トレイルと潮風トレイルの接続】 ○表現として潮風トレイルのルートを書いて、ここで接続するという表現にする。 ○接続するところまできちんと川風トレイルを整備しよう。潮風トレイルは、全線歩いたコアなファンがちゃんといる。そういう人たちは発信してくれる。全線歩いた人が情報発信するのはすごく迫力あるから、訴求力がすごい。	○川風トレイルは潮風トレイルに接続できるよう調整する。
	(2)町全体で一貫したサイン計画を	【サイン計画】 ○町でちゃんとサイン計画つくったほうがいい。最低限やってほしいのは、サインのデザインを決めること。サインシステムの基本を決めておく。 ○そんな方（太田さん）がいらっしゃるのだったら、宍戸さんがつくってくれた「川風トレイル」、教育委員会にも中身確認してもらった上で、デザインすごく立派なものにして下さい。	○町でサイン計画を進める。
		【株式会社スティーブアスタリスクの太田さん】 ○この方は、ぜひ防災教育チームにも観光交流チーム、両方に入ってもらいましょう。 ○この方にコンテンツとしてしっかり見てもらう。すばらしい方がいらっしゃるようなので、補強しましょう。見て分かる、歩きながらでもサインを見てちゃんとたどり着ける、そういう仕組みをつくっていきましょう。サインシステムをきちんとつくる。太田さんにお願いして基本のデザイン決めてもらう。	○町のクリエイティブディレクターである太田さんに本検討部会の委員になっていただく。（調整済み） ○町でサイン計画を進める。
		【④かわまちづくりでサインをつくる】 ○国交省も、かわまちづくりでサインをつくれるよね。かわまちづくりでフットパスを整備しました、そのフットパスに関わるサインだったら大丈夫ですね。	○かわまちの中でつくることは可能です。（国交省） ○町のサインシステムに沿って案内サイン・説明サインなどを検討する。
	(3)大階段のデザイン	○大階段もこんな感じ（資料 10 ページ）で整備しましょう。柏の葉の調整池に向かって下りていく階段。歩くための階段は細めで離してつけて、その間に座ることができる階段状の観客席的な部分がある。（左右の階段から）コンクリートは通っていて、観客席にはなる。一気通貫して下りることはできないだろうけれども、このようにデザインすると大階段に見える。コスト安くでも使い勝手は全然悪くない、見栄えもいいという、なかなかいいアイデアだと思う。この手のデザインをかわまちづくりの計画の中に入れましょう。	○柏の葉の事例を参考に大階段のデザインを検討する。
	(4)選奨土木遺産記念碑の設置	○全員で現地見学（右岸～丸森橋～左岸・弁天社～丸森橋～右岸） ○検討結果：丸森橋の右岸上流の道沿い、丸森橋が斜めに見えるところを、選奨土木遺産記念碑の設置場所が望ましい。	○設置場所の調査（調査済み） ○設置方法の検討（位置、空間デザイン、道路との調整、将来の周辺整備　など）（調整中）
	(5)水辺の楽校	○今回、「水辺の楽校」の絵がない。水を引き込んで流し池や、内川に飛び石を設けて対岸に渡るようにする構想があった。飛び石の下に仕切りの板を入れて、そこに水を溜めたいと何度も話してきたのですが、その絵がない。 ○飛び石に関しては何か僕が文句言った気がする。これだけ砂出てくる川だったら、すぐ砂で埋まってしまうのではないか、維持管理できないと言った。	○河川防災ステーションの東側のやぶ地の場所です。部会長の指摘もあり、今回の資料には入れておりません。今後「かわまちづくり」とあわせ水辺空間の利用について議論していきます。（丸森町） ○かわまちづくりの中で取り組むという方法もあります。事業期間は 5 年です。（国交省）
５．対岸高水敷の樹木伐採		○丸森大橋の下は、一部樹木を残して伐採するエリアで、部会のメンバーが対岸からの眺望等を何回も確認し、残す木を選定しています。樹木伐採後、国のほうでは整地までして今後の利活用につなげていただけるようなので、半澤さんを中心に協議を進めています。 ○専門家のデザインセンスで残す木が決まっているので、出来栄えを楽しみにしてください。半澤さん中心に、牧草地的に使う予定ですよね。とてもすっきりしたきれいな水辺が出てきて、防災ステーションから見ると、幾つかきれいな木が残っている向こう側が牧草地になっていてという景色が出来上がると、最高です。	○状況を見守る。部会で進捗状況を報告する。

（４）第３回丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会 説明資料

資料－6

水防センターのイメージ：令和元年10月の台風19号の際の人命救助の拠点
緊急援助隊（消防・警察）、自衛隊が人命救助のための拠点として利用したのが舘矢間まちづくりセンターです。緊急車両数十台で、隊員が集結し、指揮系統を整理してこの場所から救助現場に向かいました。

観光交流センターの飲食・物販コーナーのイメージ（川が見える）
HASSENBA（熊本県人吉市、球磨川くだり発船場）/https://note.com/irukaoyaji/n/n1deb33fa1411

民間事業者によるサウナ施設のイメージ
不動尊公園内のMARUMORI―SAUNA

民間事業者による船下りのイメージ
阿武隈ライン船下り

フットパス・ウォーキングのイメージ
ブラマルモリ・丸森中心部編『町場替えと災害』のモニターツアー
地元ガイド役は斎藤信一さん。鳥屋舘（現「鳥屋嶺神社」周辺）中心に町場が配置されたが、繰り返される水害対策のため、1801年から町場替えが行われた。

－　目次　－

（１）河川防災ステーション利活用方針 ---------- 1
（２）（仮称）川の駅の整備方針 ---------- 3
（３）河川防災ステーションの施設レイアウト ---------- 6
（４）かわまちづくり計画の検討 ---------- 7
（５）かわまちづくり計画の活用 ---------- 11
（６）対岸高水敷の樹木伐採 ---------- 13

令和５年８月３１日
丸森町 ・ 国土交通省 東北地方整備局仙台河川国道事務所

（１）河川防災ステーション利活用方針

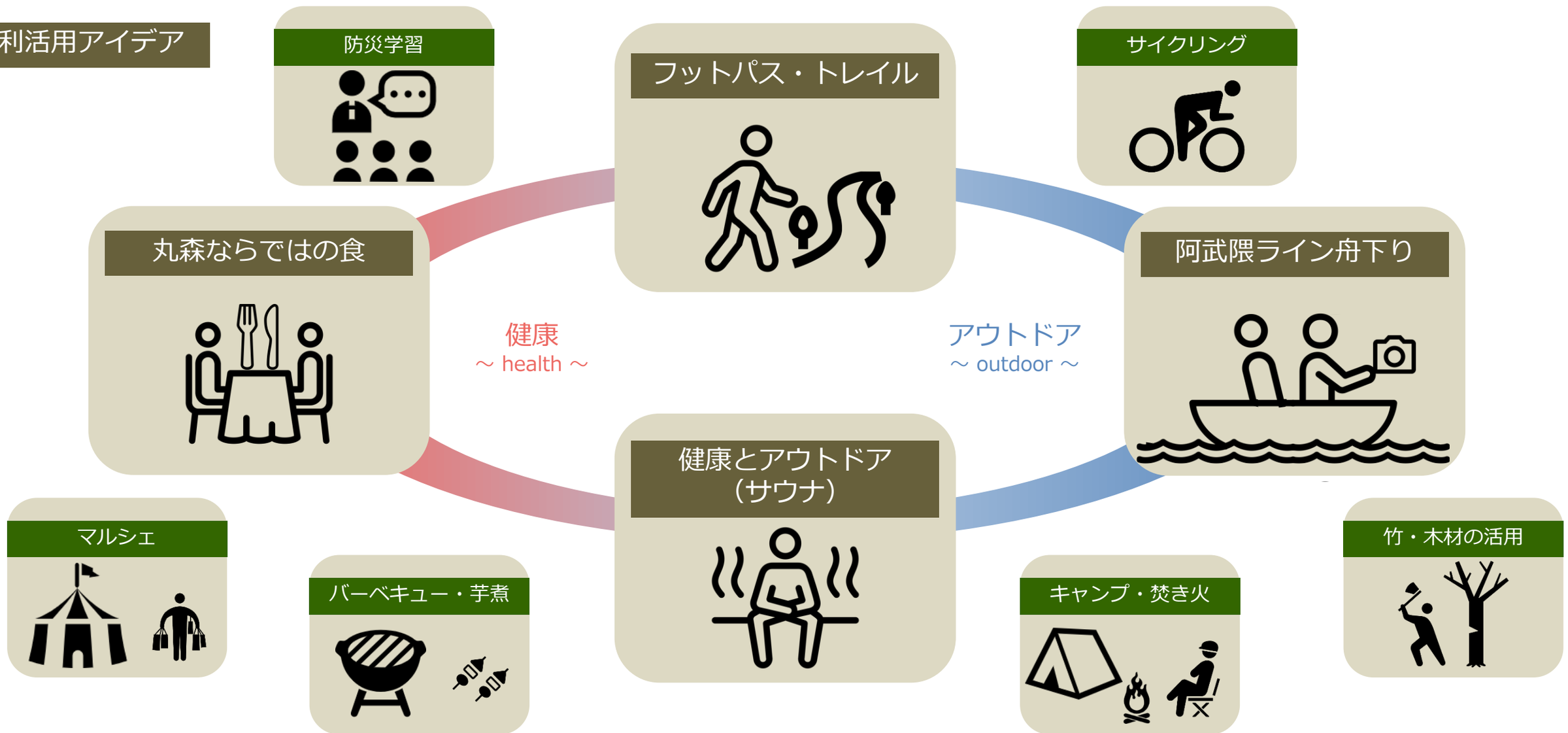
➢ 平常時の利活用方法については、他の類似施設との差別化を図りながら、「健康」と「アウトドア」をキーワードにした利活用アイデアを展開し、町内観光施設への周遊につながる賑わいづくりの拠点（ゲートウェイ）として整備する。

キーワード

健康　～ health ～　&　**アウトドア　～ outdoor ～**

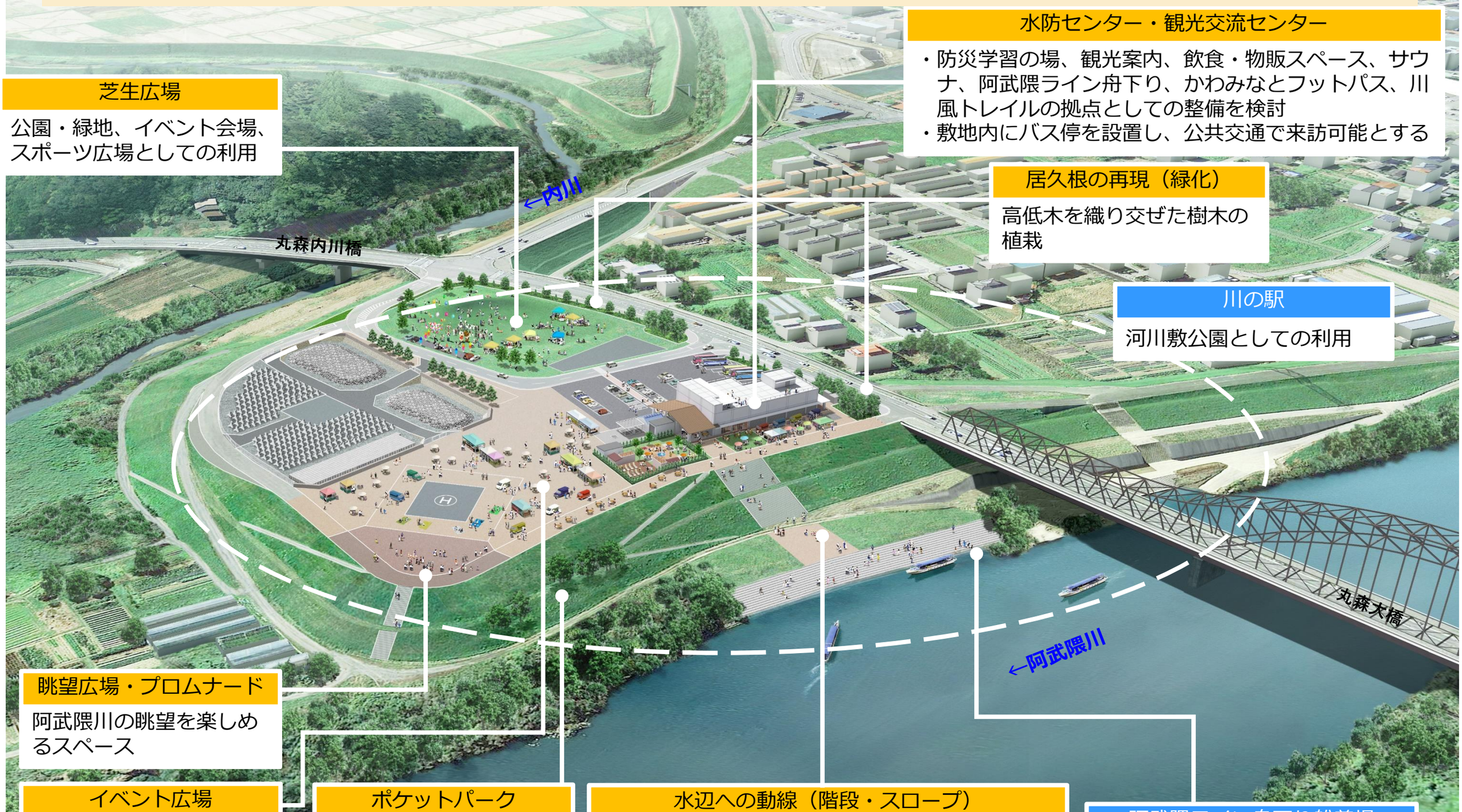
訪れた人の健康増進に寄与するような野外アクティビティ等、丸森の豊かな自然を活かした利活用を展開する

利活用アイデア



（１）河川防災ステーション利活用方針　イメージパース（平常時）

- 水防センターは、河川防災ステーションの防災機能を確保するとともに、町のゲートウェイとして観光交流センターおよび民間商業施設を整備。
- 水防センター周辺には、平常時のにぎわいを創出する空間、イベント広場、眺望広場を整備。また、芝生広場、資材置き場についても平常時利用に配慮した空間デザインを行う。
- 周辺には周遊につながる機能として、阿武隈ライン舟下りの船着き場やフットパスの拠点、ルートを整備。



芝生広場

公園・緑地、イベント会場、スポーツ広場としての利用

水防センター・観光交流センター

・防災学習の場、観光案内、飲食・物販スペース、サウナ、阿武隈ライン舟下り、かわみなとフットパス、川風トレイルの拠点としての整備を検討
・敷地内にバス停を設置し、公共交通で来訪可能とする

居久根の再現（緑化）

高低木を織り交ぜた樹木の植栽

川の駅

河川敷公園としての利用

眺望広場・プロムナード

阿武隈川の眺望を楽しめるスペース

イベント広場

マルシェや軽トラ市等を行えるイベント広場

ポケットパーク

既存樹木を保全
休憩施設の設置を検討

水辺への動線（階段・スロープ）

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

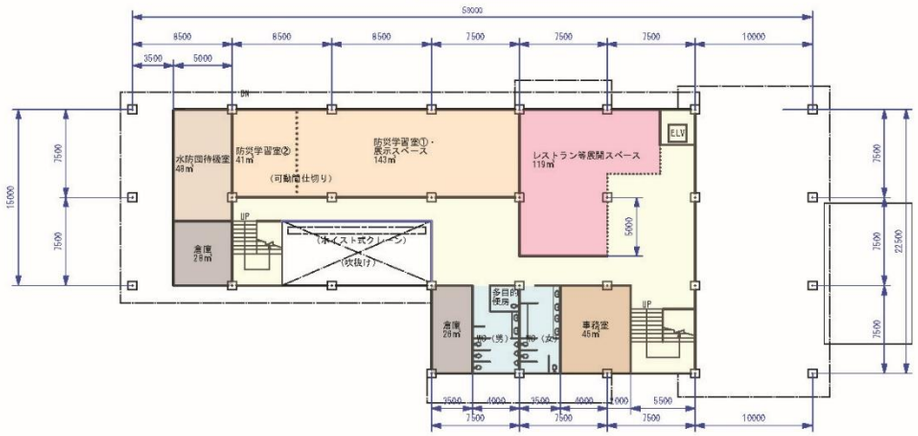
阿武隈ライン舟下り船着場

階段状の船着場整備を検討

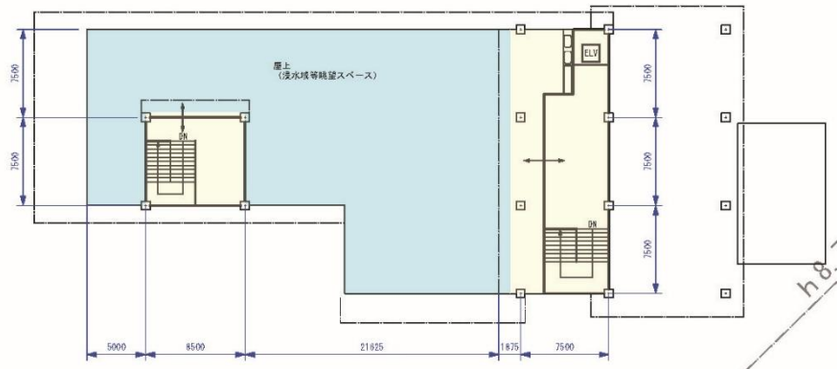
（２）（仮称）川の駅（水防センター＋観光交流センター）の整備方針

〇川の駅は、水防センターに、町全体の観光案内機能と飲食・物販の商業機能を併設した建物。
（ただし、一部民間施設は別棟で整備を予定。）
〇必要な諸室と規模を設定。

２階ブロックプラン

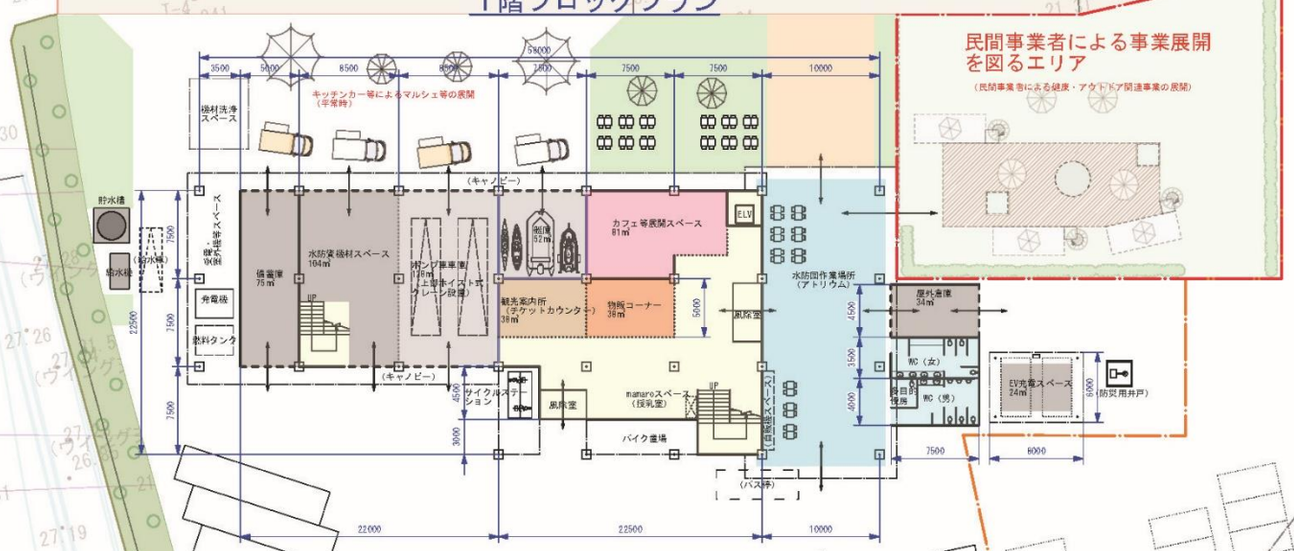


３階ブロックプラン



建築面積：1,297.50㎡
延床面積：2,320.07㎡
（１階：1,297.50㎡、２階：766.13㎡、３階：256.44㎡）

１階ブロックプラン



民間事業者による事業展開を図るエリア
（民間事業者による健康・アウトドア関連事業の展開）

イベント時拡張スペース（緊急時避難者用駐車場）

大型駐車場

普通車駐車場

h8.75m制限ライン

h4.5m制限ライン

【前回提示案からの主な修正点】
・「民間事業者による事業展開を図るエリア」を明確化
・建物前面（川側）にマルシェ等の展開を想定したスペースを確保
・水防団作業場所として屋根付きの半屋外空間（アトリウム）を配置
・浸水域等眺望スペースとして屋上利用を想定

【本ブロックプランの留意事項】
・本案は現時点で想定される「（仮称）川の駅」の施設規模や機能構成を模式的に表現したものであり、今後の建築基本・実施設計により現案とは異なるもの（より良いもの）へと昇華させるべきものと考えている。
・今後の建築基本設計・実施設計においては、設計提案を受けることを想定している。

（２）（仮称）川の駅（水防センター＋観光交流センター）の整備方針

（建物の建設および公共・民間の費用負担）

●建築はＳ造を想定。建築費は、現在の規模で約９．４億円を見込んでいる。
●建物は、テナント部分をアロケーションし、防災関連の補助事業を導入する予定。
●テナント部分は、町の起債等で整備し、民間事業者に一定程度の負担をお願いする予定。

階	諸室名	面積（㎡）	面積（坪）	災害時の機能	平常時の機能
1階	観光案内所（チケット売り場）	38	11.5	－	やまゆり館の機能を移転
	カフェ等展開スペース	81	24.5	炊き出し、要配慮者の受け入れ	テナントA
	物販コーナー	38	11.5	－	テナントB
	水防資機材スペース	104	31.5	水防資機材を保管	水防資機材を保管
	ポンプ車車庫	128	38.7	出動後は支援物資の集配拠点	町有ポンプ車2台
	備蓄庫	75	22.7	毛布・飲食物など	支援物資の集配拠点
	艇庫	52	15.7	救助用の艇	SUP・カヌー
	屋外用倉庫	34	10.3	－	日よけやイス・テーブルを保管
	水防団作業場所（アトリウム）	200	60.5	水防活動の作業場所	川への視線の抜けを意識した通路
	その他（ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ、ﾄｲﾚ・ｼｬﾜｰなど）	547.5	165.6	一時避難者にも開放	－
	計	1297.5	392.5		
2階	レストラン等展開スペース	119	36.0	要配慮者の受け入れ	テナントC
	展示ホール（防災学習室①）	143	43.3	水防団指令室	防災学習展示
	倉庫①	28	8.5	－	会議室の備品を収納
	会議室（防災学習室②）	41	12.4	打合せスペース	イベントの打合せや地域の集まり
	事務室	45	13.6	－	テナントD
	水防団待機室	48	14.5	水防団員の仮眠・休憩室	水防団訓練時の打合せ
	倉庫②	26	7.9	毛布・飲食物など	支援物資の集配拠点
	その他（トイレなど）	316.13	95.6	－	－
	計	766.1	231.7		
3階		256.4	77.6		
テナントが家賃負担する諸室 計		321	97.1		
合計		2320	701.8		

（施設の管理運営手法）

●本施設は、災害時の水防拠点としての機能以外に、平常時のにぎわいづくりに寄与し、町内周遊につながるゲートウェイとして、町内外から誘客につながるアイデアを実践していく施設であることから、民間事業者等のノウハウや有効な発想を取り入れ、効果的かつ効率的な運営が求められる。
　このため、本施設については、民間事業者等の公募又はまちづくり会社の設立も視野に入れながら、指定管理者制度を活用した「公設民営」方式による管理運営を想定している。

（「都市・地域再生等利用区域」制度を活用した事業展開）

●「河川防災ステーション」として整備される区域の内「備蓄資材置き場」を除いたエリア、および「かわまちづくり等」で河岸部の階段護岸などのエリアについて「都市・地域再生等利用区域」指定を検討。
●丸森町は、仙台河川国道事務所（河川管理者）と、区域指定の要望・許可、占用許可の申請・許可の手続きを行う。
●丸森町や指定管理者は、このエリアで、アウトドア事業、飲食・物販事業、舟運事業、かわまち歩き事業などを展開する民間事業者と、「施設使用契約、維持管理に関する覚書」を締結する。民間事業者は、このような手続きを踏んで、河川という公共空間で営業活動が可能となる。

●都市・地域再生等利用区域の指定を受けた管理運営の事例）

（２）（仮称）川の駅（水防センター＋観光交流センター）の整備方針

（防災学習の考え方）

●令和元年10月の台風19号による災害（土石流、氾濫・浸水）をテーマとする。
●丸森町に暮らす住民・子供たちを主対象とし、河川の氾濫や土砂災害のしくみ、安全確保の手段や被災後の復旧方法などを身につけることを目的とする。
●川の駅に設ける展示ホール（防災学習室）は、広報・学習の拠点とする。
●屋外の被災箇所、防災事業（河川堤防整備、遊砂地整備、河川防災ステーション整備）を見学するルートを設ける。

（丸森町の小・中学生（2021年）と展示ホールの規模）

●小学校は８校、各学年１クラス、少人数のため学級を統合している学校が３校。最大は舘矢間小学校5年生の37人。
●中学校は丸森中学校が１校。最大では３年生の36人。
●防災学習室の規模は、生徒数を参考に検討する。

（語り部を育成し、県内の小・中学生の誘客を図る）

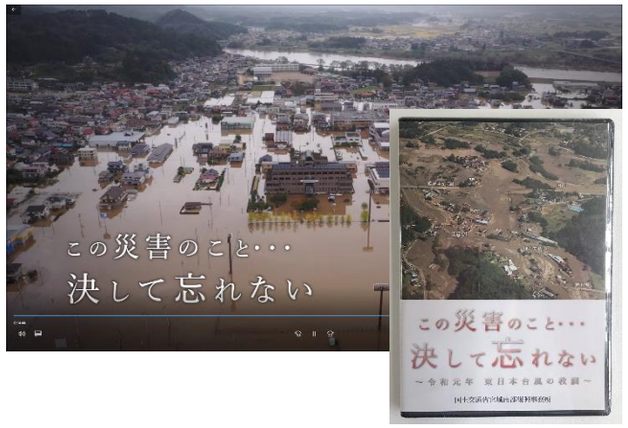
●水害や土砂災害は、身近で起きる災害。その特徴を踏まえ、県内の小・中学生の遠足や校外学習を誘致する。

宮城県教育旅行ガイドブック2021

防災学習に関する意見（住民説明会より）

・防災かまどベンチ。普段は公園のベンチとして使い、椅子を上げると「かまど」になる。炊き出しの訓練や東北の文化となっている芋煮会など、を通じて参加者同士がコミュニケーションできる訓練ができればいいのでは。
・普段から人が集まり、利用しやすい工夫。防火かまどベンチは、平時は使えないようなところもある。普段から使えないと災害時に使えない。子供たちの防災キャンプなど、学習の場としても平時から使える工夫が必要と思う。
・防災学習は知ることだと思う。丸森で起きた災害を分かりやすく展示したりすることも必要だと思う。
・防災には情報収集が大事である。国、県、町では、インターネットを通じた分かりやすい情報を発信しているが、見れない住民も多くいる。こういった情報を住民が自ら入手できるような防災学習も必要ではないか。
・展示室は、写真や記録の展示もいいが、子供たちの体験として、土のうをつめる、一輪車をつかう、バケツリレーをしてもるとか防災の知識を実体験できるようにし、年一回、これらを取り入れた防災運動会をやってみるなど、マスコミが食いつき、町外の人々が丸森に行ってみたいとなれば、子供たちといっしょに大人もくる。キッズパークの防災版のような体験施設になればとも思います。
・定期的に開催するマルシェや軽トラ市などのイベントの際に、重機の体験学習を取り入れることも考えられる。

防災学習展示の事例（宮城南部復興事務所　制作）



防災学習用DVD

防災学習用立体地図

防災学習の事例

防災学習（他事例）

水防活動訓練（他事例）

イベント（防災フェスタ）

（３）河川防災ステーションの施設レイアウト
備蓄資材置き場の修景デザインおよび土砂置き場のアースデザイン

➢ 備蓄資材置き場および土砂置き場については、平常時利活用に配慮したデザインとする。

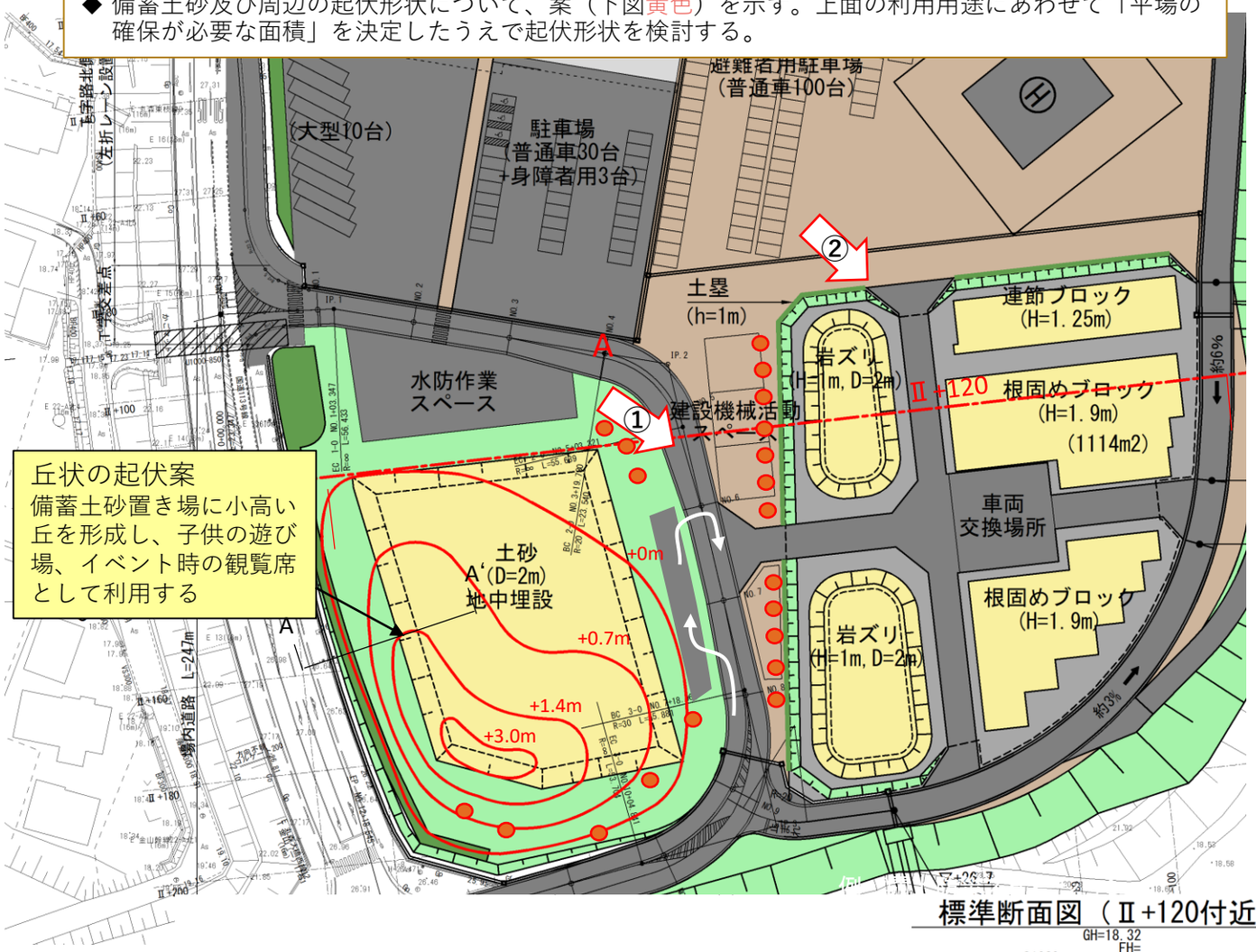
1. 備蓄土砂を地中埋設としている箇所について、子どもの遊び場となるように起伏をつけた仕上げとし、ところどころに緑陰を設ける。

2. 観光交流施設の平常時利活用のため、資材置き場は地盤を下げ、手前に土塁を設けることで備蓄資材を目隠しする。樹木、薪置き場やフェンスの設置を含め、そのデザイン性に留意する。

備蓄土砂の仕上げ

◆ 備蓄土砂は、地中に埋設し、上面を平常時利用可能としている。非常時の作業を考慮し、場内道路側と備蓄土砂周回には重機が走行可能なトラフィカビリティを確保する。

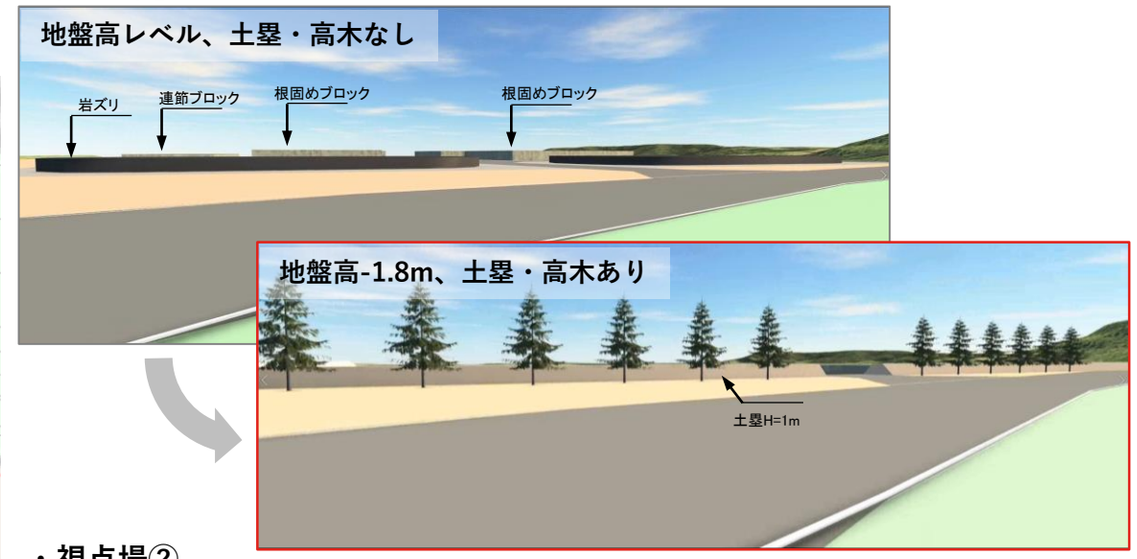
◆ 備蓄土砂及び周辺の起伏形状について、案（下図黄色）を示す。上面の利用用途にあわせて「平場の確保が必要な面積」を決定したうえで起伏形状を検討する。



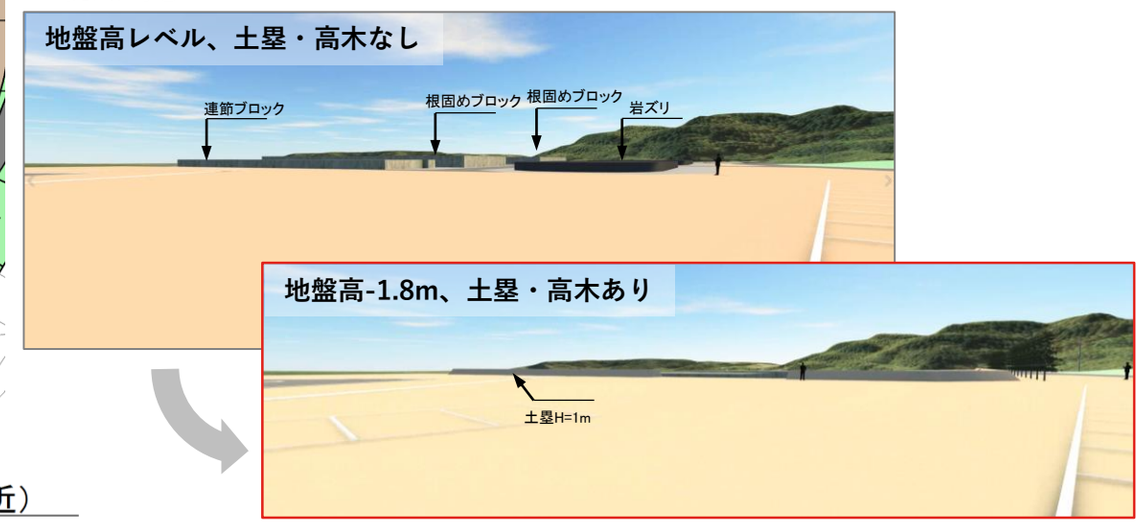
丘状の起伏案
備蓄土砂置き場に小高い丘を形成し、子供の遊び場、イベント時の観覧席として利用する

備蓄資材置き場の目隠し

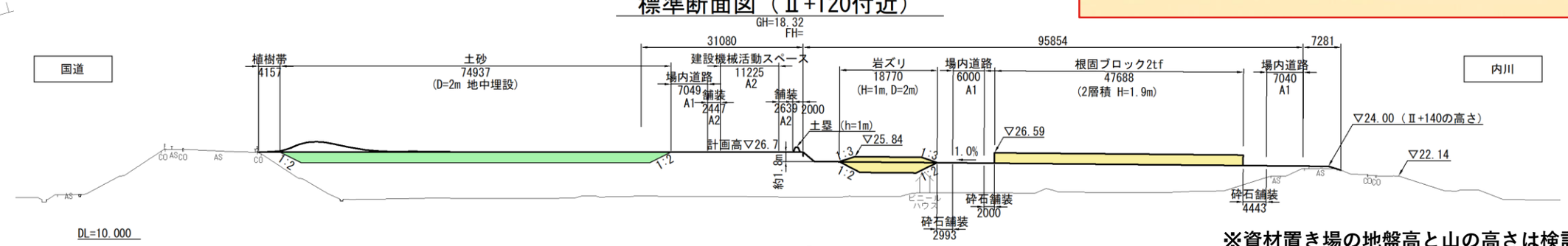
・視点場①



・視点場②



標準断面図（Ⅱ+120付近）



※資材置き場の地盤高と山の高さは検討中

（４）かわまちづくり計画の検討（①阿武隈ライン舟下り拠点の整備）

丸森町のかわまちづくりは、次の２つの事業を想定
①阿武隈ライン舟下りの拠点整備
（階段護岸、大階段、スロープ、ポケットパーク、散策路、サインなど）
②かわみなとフットパスの整備
（散策路、サイン、階段護岸、スロープ、ポケットパーク、　など）

そして「川風トレイル」の活用につなげる

水防センター・観光交流センター

・防災学習の場、観光案内、飲食・物販スペース、サウナ、阿武隈ライン舟下り、かわみなとフットパス、川風トレイルの拠点としての整備を検討
・敷地内にバス停を設置し、公共交通で来訪可能とする

川の駅

河川敷公園としての利用

ポケットパーク

既存樹木を保全
休憩施設の設置を検討

水辺への動線（階段・スロープ）

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

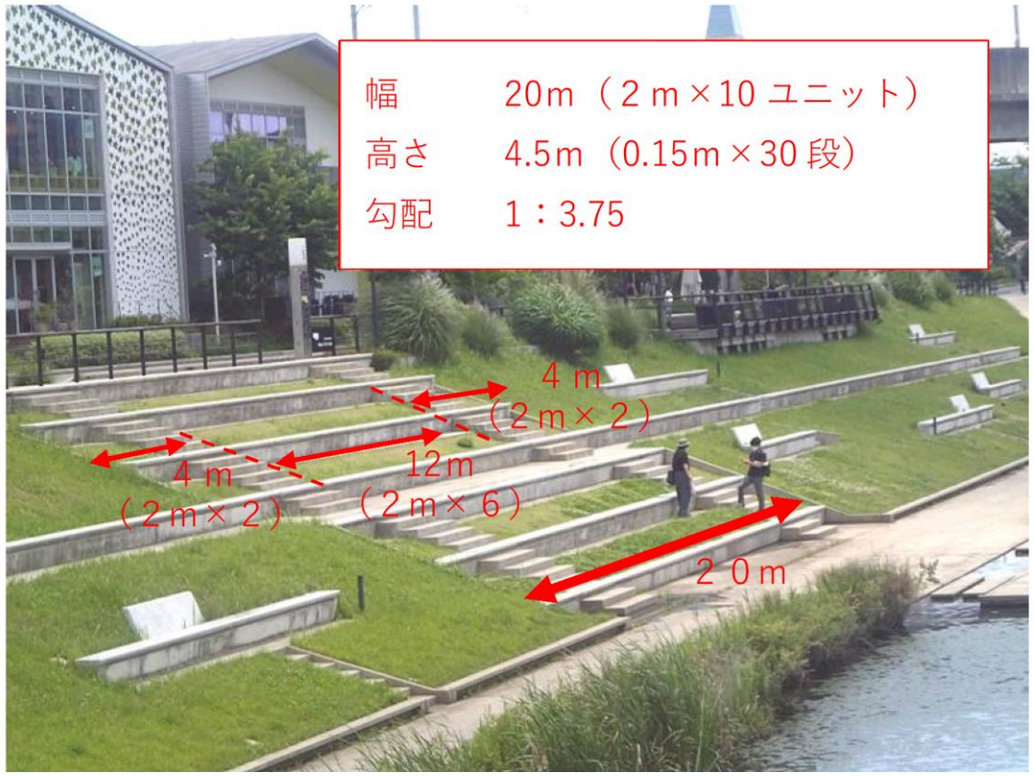
阿武隈ライン舟下り船着場

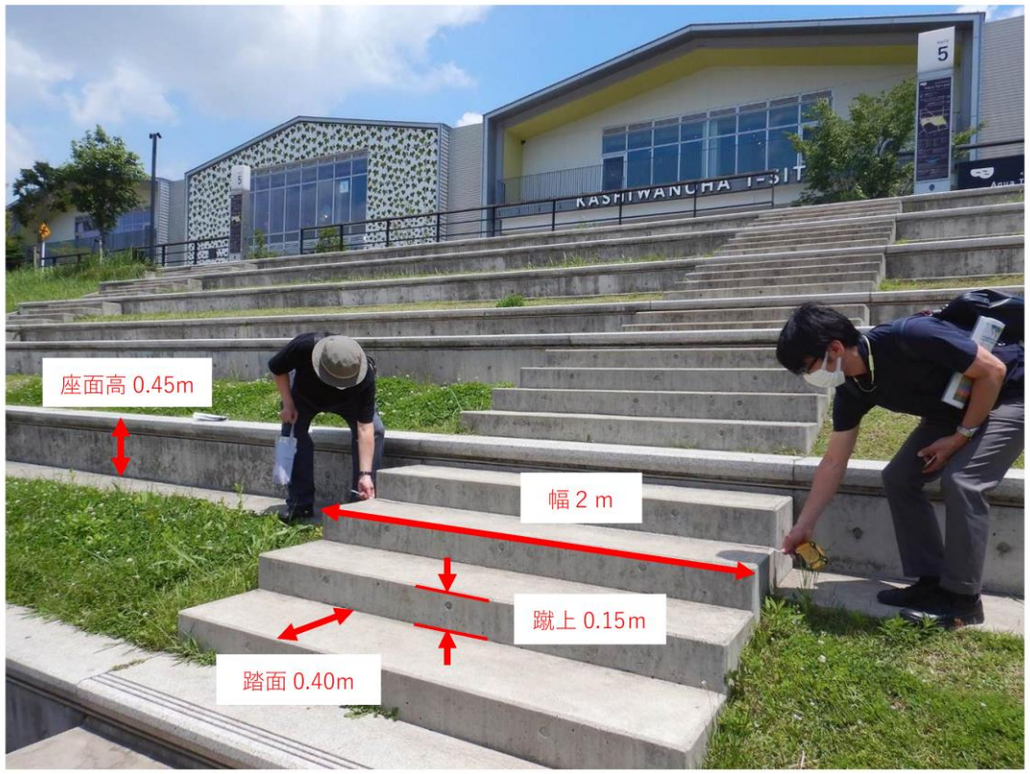
階段状の船着場整備を検討

（４）　かわまちづくり計画の検討（大階段のデザイン事例：柏の葉アクアテラス）

（大階段のデザイン：多機能の階段）

●「川の駅」前面の大階段（20m幅）は、アクセス・休憩・観覧席など多機能に利用できるデザインを検討する。
●その1例として、「柏の葉アクアテラス」（千葉県柏市）を紹介する。
●全幅は20m、両脇に幅2mで天端道路と水辺の散策路をつなぐアクセス階段がある。中央部の16mは、休憩やイベントで人が座りやすい高さ（0.45m）になっており、水辺のテラスの音楽会を楽しめる観覧席ともなる。





（４）　かわまちづくり計画の検討（②かわみなとフットパス）

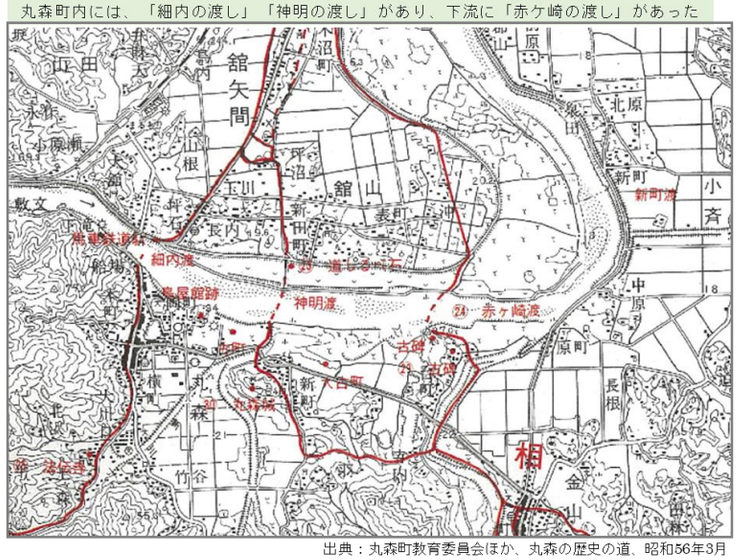
（かわみなとフットパスの整備・活用）

●丸森橋・丸森大橋、その間の左右岸・堤防を巡る「かわみなとフットパス」。約３km、徒歩で３５分程度の距離、要所々々の解説を入れて1時間程度か。

●新しく選奨土木遺産の記念碑が加わる予定。

●町場の観光施設（斎理屋敷や八雄館）などとの連携を図り、町内のフットパス（まちなかフットパス）も検討する。

丸森町内には、「細内の渡し」「神明の渡し」があり、下流に「赤ケ崎の渡し」があった



出典：丸森町教育委員会ほか、丸森の歴史の道、昭和56年3月

Ⓐ河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場→　Ⓑ鳥屋館→　Ⓒ船場地区（フラワーロード整備）→　Ⓓ丸森橋→　Ⓔ姥石→　Ⓕ丸森大橋→　Ⓐ

かわみなとフットパス　約3km(徒歩約35分)

整備施設（案）　散策路、休憩スペース、眺望広場、フラワーロード（花壇）等

渡河橋の事例（仙台市笊川）

（４）　かわまちづくり計画の検討（③かわみなとフットパスの立ち寄り拠点「丸森橋の両端部」）

（丸森橋が選奨土木遺産に認定）

●土木学会により丸森橋が令和４年度の選奨土木遺産委選定された。

●丸森橋は、戦前に作られたプラットトラス道路橋として宮城県内に唯一現存している、石張りの橋脚も特徴的な貴重な土木遺産である。（1929（昭和4）年竣工）

（左右岸に丸森橋を眺める広場を検討）

●丸森町では、丸森橋が選奨土木遺産認定されたことから、歴史的価値を広く周知するとともに後世に伝えるため、右岸の橋詰に展望広場を検討する。

●また橋の歴史にもゆかりある左岸の弁天社付近には、橋の歴史を偲び、姥石や細内渡を眺める水辺の広場を検討する。

●かわまちづくりフットパスの立ち寄り拠点とする。

（整備メニュー）

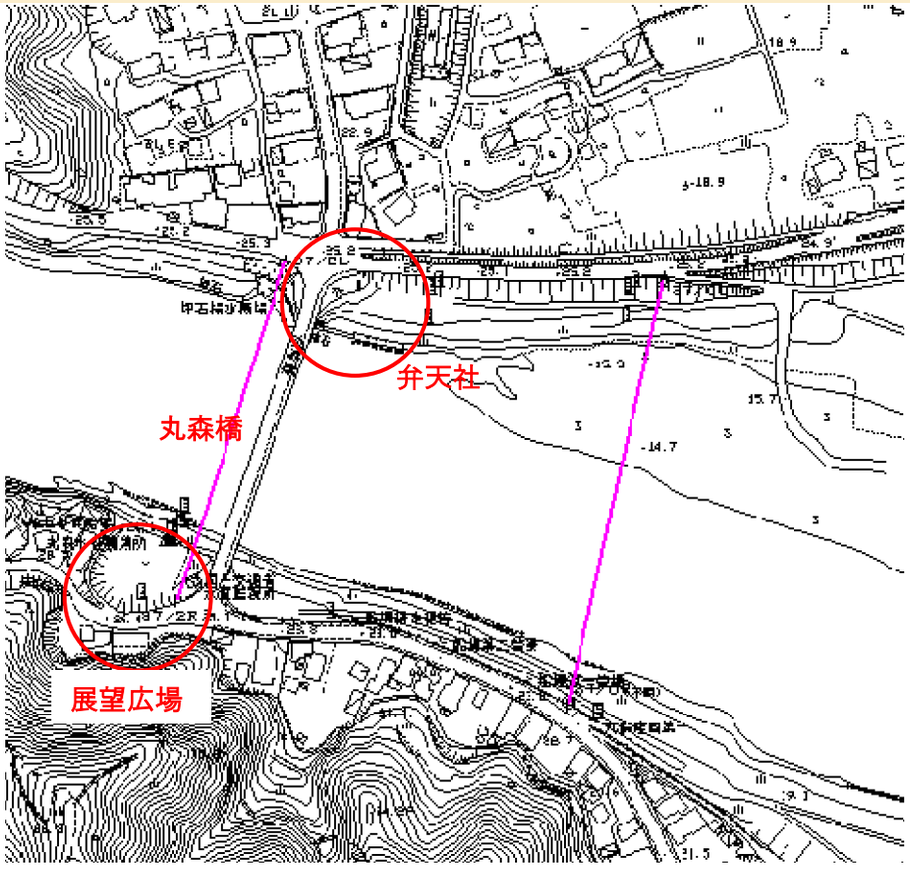
〇樹木伐採

〇サインの設置

〇水辺へのアプローチ　など

右岸から丸森橋を眺める

鳴子ダムの記念碑



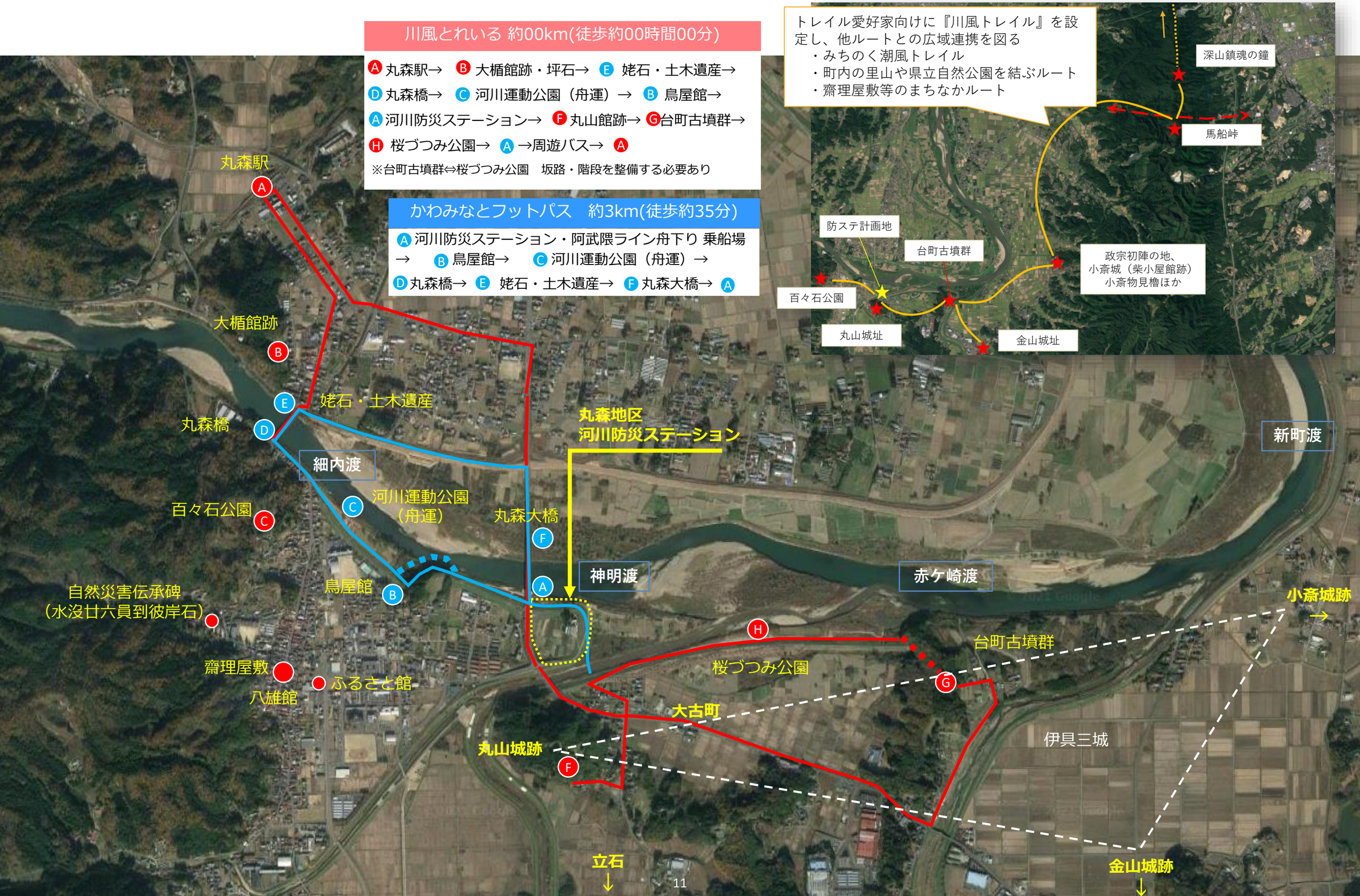
丸森橋・弁天社位置図

検討部会による現地調査

弁天社からの眺望確保のめの検討

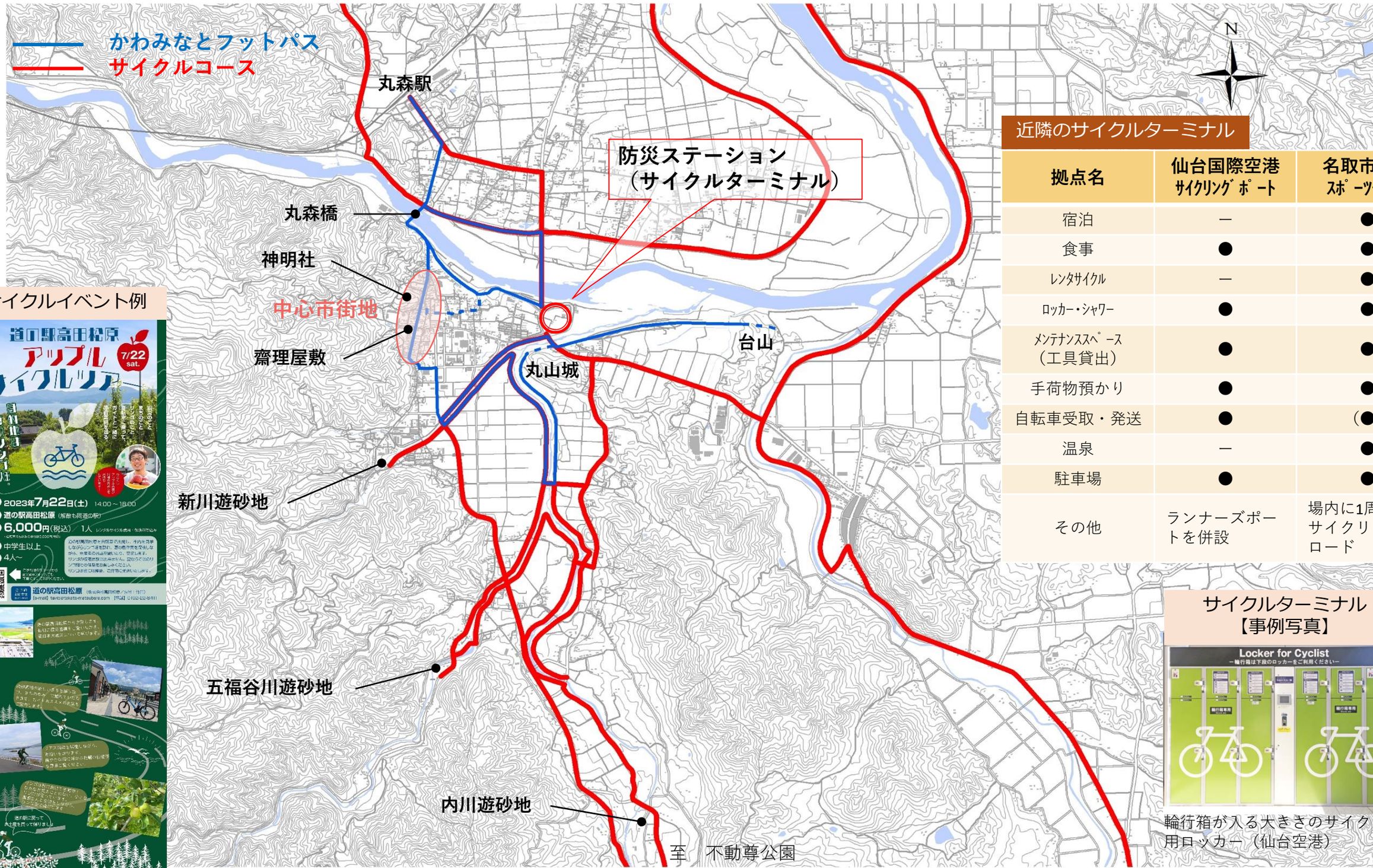
（５）　かわまちづくり計画の活用（川風トレイル）

（ロングトレイルへの展開）
●トレイル愛好家向けに『川風トレイル』を設定し、「みちのく潮風ルート」など他のルートとの広域連携を図る。



（５）　かわまちづくり計画の活用（サイクリング等）

サイクルターミナルを起点に、電動キックボードも利用できるようなサイクルコースを検討し、サイクリスト以外の集客も図る。また、町内の防災施設をコースに入れることで災害記憶の伝承・防災学習につなげる。　内川や新川にある桜づつみ公園と連携したお花見の拠点としての活用など。



サイクルイベント例

近隣のサイクルターミナル

拠点名	仙台国際空港 サイクリング ポート	名取市サイクル スポーツセンター
宿泊	―	●
食事	●	●
レンタサイクル	―	●
ロッカー・シャワー	●	●
メンテナンススペース（工具貸出）	●	●
手荷物預かり	●	●
自転車受取・発送	●	（●）
温泉	―	●
駐車場	●	●
その他	ランナーズポートを併設	場内に1周4kmのサイクリングロード

サイクルターミナル
【事例写真】

輪行箱が入る大きさのサイクリスト用ロッカー（仙台空港）

（５）対岸高水敷の樹木伐採

対岸の高水敷の眺望確保、利活用に向けた樹木伐採について、令和５年度より着手している。

昨年度の検討内容

対岸高水敷の樹木伐採

防ステから対岸への良好な景観を復活

高水敷の樹木は、環境面の機能（生態系保全、景観形成）に加え、治水上の問題（流下能力の低下、偏流や高速流の発生の要因となる）にも関わる。

河川管理者による伐採・維持管理の他、近年は、伐採や再繁茂抑制に繋がる高水敷の利用において、民間活力を導入している事例もある。

樹木伐採時には、堤内民地での耕作を含めた防ステからの見えに十分配慮する。

民間による利用（例）

・樹木の再繁茂抑制のため、牧草生産地として利用する
・樹木の再繁茂抑制のため、マレットゴルフ場等として、日常的に住民が利用する
・樹木の伐採や重機の操縦等、防災に関するイベント・ワークショップのフィールドとして利用する

樹木伐採の立会確認箇所（令和5年6月）

高水敷の樹木伐採について

（R5.6.23）丸森町総務課／仙台河川国道事務所　角田出張所　打合せ資料